

JPEC World Report

欧州 2026 年 6 月版

ハイライト

➤ 政策動向

- イタリア、オーストリアの再エネ関連投資支援など、脱炭素投資への支援が継続。
- 英国では、2038～2042 年を対象とする第 7 次炭素予算案として、1990 年比約 87%削減の目標を公表。目標達成に向けて脱炭素を進めることはエネルギー安全保障にも繋がる点を強調。
- 英国では、第三国経由ロシア産石油製品の輸入を 2027 年から禁止する方針を発表。

➤ 企業動向

- Repsol で、バイオ燃料の新たな商業プラント（20 万トン/年規模）が稼働開始。
- 水素・合成燃料分野では、ORLEN の水素ステーション新設や、INERATEC 供給の e-SAF を使った旅客機の実証飛行などの動きが見られた。
- 第 2 世代 SAF 開発において、Lighthouse Green Fuels が英国プロジェクトの FEED 完了を発表した。また、フランスでは、Technip Energies、Airbus 等の企業連合で ATJ（Alcohol to JET）プロセスの開発に取り組む。

➤ 石油需給

- ジェット燃料とディーゼルのクラックの上昇を背景にしたイタリア等での増産に加えて、ドイツ等の定修完了により、2026 年 4 月の欧州製油所の原油処理量は 4 ヶ月ぶりの高水準となった。
- 欧州のジェット燃料市場の供給不安は、足元では緩和されている様子。米国等からの輸入増加に加えて、欧州製油所のジェット燃料増産で十分な供給が確保されている。



この記事は、賛助会員・情報提供サービス購読者限定です。
お申し込み後、続きをご覧くださいのための閲覧用パスワードをお送りします。

賛助会員・情報提供サービス購読者の方は、
下のボタンから続きをご覧くださいます。

続きを読む

◆情報提供サービスのお申込みはこちら >

◆賛助会員については、こちらからお問い合わせください >

JPEC World Report

米州 2026 年 6 月版

概 況

- ◆ 5 月 25 日、原油価格が下落した。北海ブレント先物は一時 6.2%下落し、97.10 ドル/バレルを付けた。また、WTI 先物は、同 91 ドル近辺で推移した。トランプ大統領は前日（24 日）、「交渉は秩序立って建設的に進んでいる」と SNS に投稿する一方で、「合意を急ぐ考えはないとし、ホルムズ海峡の封鎖は合意完了まで維持する」と付け加えていた。米政府高官は、双方が最終的な承認を得るまでには、数日を要する可能性があるとした。
- ◆ 米国・イラン双方は、停戦やホルムズ海峡再開の枠組みでは、5 月中を通じて、大きな隔たりは克服できなかった。
- ◆ 6 月第 2 週は、NYMEX では原油価格が続落した後、米国とイランの合意が近いとの観測で金は反発したが、第 3 週には G7 サミット（15～17 日フランス・エビアン）と併せ、米国とイランの戦闘終結を巡る合意があり、中東情勢悪化への警戒が薄れ、需給の引き締め感が後退する展開がみられた。米国・イランは、19 日にジュネーブで署名を行ったが、成果への期待と先行きへの警戒が相半ばした。
- ◆ 以上の展開の中で、エネルギー省（DOE）エネルギー情報局（EIA）は、6 月 9 日、短期エネルギー展望を発表した。同展望は、予測の前提として、ホルムズ海峡は当面実質的に閉鎖されたままであると想定しつつも、同海峡を通航する石油輸送は 2026 年第 3 四半期に再開される可能性はあると見られる一方、戦争前の輸送量に戻るには数か月を要し、2027 年初頭まで見込まれないと見ている。



この記事は、賛助会員・情報提供サービス購読者限定です。
お申し込み後、続きをご覧くださいのための閲覧用パスワードをお送りします。

賛助会員・情報提供サービス購読者の方は、
下のボタンから続きをご覧ください。

続きを読む

◆ 情報提供サービスのお申込みはこちら >

◆ 賛助会員については、こちらからお問い合わせください >

JPEC World Report

中国 2026 年 6 月版

ハイライト

◇4 月の市況概況 ※5 月の統計データは 6 月末に更新されるため、次号にて掲載予定

- 原油は、生産量約 1,800 万トン(前月比 100 万トン減)、輸入量は 3,800 万トン(前月比 1,000 万トン減)。輸入依存度が高い中でも、輸入量は大きく減少。
- 石油精製品(ディーゼル・ガソリン・ケロシン・燃料油)は、年間を通じ安定した生産水準を維持している。ナフサは輸入量の減少が続く。
- 製油所稼働率は、国営石油会社が通年 80%前後、地方製油所は春先 50%・冬場 60%超。4 月はいずれの稼働率も約 5%減少。

◇5 月の業界動向

- OGX の加速**：風力・太陽光やSAF、水素・メタノール等の代替エネルギー導入が急進。また、廃プラリサイクルや CCUS、電化エチレン生産による産業の脱炭素化も活発であるほか、AI を活用したスマート操業も加わり、国を挙げた取り組みがさらに加速している。
- 生産・技術革新**：独自の廃プラ転換や電化エチレン生産等による製造技術の環境対応を推進。AI 導入に伴うコスト増には、生成 AI による作業量の削減や損害回避モデル等の効率化策で対応。併せて、石炭由来エチレングリコール事業等への投資により、資源の多様化と供給網の強化を図っている。
- 第三国市場展開**：中東やアフリカでの油田開発や燃料輸出等従来の化石燃料分野で第三国市場展開を牽引。岸上風力発電で初の中国主導となる国際規格を立案する等、新エネ分野でも技術力を誇り、バイオ燃料輸出や南米でのグリーン水素案件受注も進む。海外市場の開拓を強力に進めている。



この記事は、賛助会員・情報提供サービス購読者限定です。

お申し込み後、続きをご覧くださいのための閲覧用パスワードをお送りします。

賛助会員・情報提供サービス購読者の方は、
下のボタンから続きをご覧ください。

続きを読む

◆情報提供サービスのお申込みはこちら >

◆賛助会員については、こちらからお問い合わせください >